

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3471504310		
法人名	エルダーサポート協会		
事業所名	グループホーム愛の郷戸手		
所在地	福山市新市町戸手2282-1		
自己評価作成日	平成29年11月10日	評価結果市町村受理日	平成30年1月11日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.hiroshima-fukushi.net/kohyo/index.html
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 あしすと		
所在地	広島県福山市平成台31-34		
訪問調査日	平成29年11月29日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

地域行事への積極的参加にて地域住民との良好な関係性が出来ている。毎朝の体操・レクリエーションで体力作り・楽しみのある生活を送っている。食事面ではすべて手作りを実施、季節の野菜や旬の物を積極的に取り入れています。法人の取り組みとしてえごまオイルを使ったものも提供しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所の近くには複数の商業施設があり、日常の買い物等にも便利である。また、周囲は住宅街で交通量も少なく、利用者の散歩等にも好適である。事業所の優れている点として、次の三点を挙げることができる。第一に管理者が各ユニットのリーダーの意欲と自主性を尊重し、運営を委ねていること。第二に、地域行事に積極的に参加し相互に交流していること。第三に、散歩や買い物をはじめ、外出に積極的に取り組んでいること、がある。工夫点としては、職員が日々の記録に要する時間を書き出し、運営の改善と利用者に関わる時間を増やそうとしていること、家族向けの便りのレイアウトを読みやすくしていることがある。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	特定非営利活動法人 あしすと			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	各ユニットに今年度の理念を掲げその中に地域との関わり項目を掲げ日々のケアの中に取り入れるようにしている	ユニットごとに、職員の作成した理念をリビングに掲示するとともに、毎月のミーティングで振り返ることで共有している。年度末には年間のまとめを行い、次年度の目標の作成につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣散歩やサロン等へ出かけ地域住民との交流を持っている	自治会館で開かれるサロンには全員が参加し、地域と交流している。また、大正琴のボランティアを受け入れたり、事業所の夏祭りには地域から100人程度の参加があるなど積極的に交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	サロン等で認知症講座等を開催している		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	毎回新しい評価や意見は少ないが、毎回一言は会議の中で発言をお願いし参考にしていきます	自治会長、民生委員、新市支所、包括支援センターが参加し、2ヶ月に一度開催している。内容は、利用状況や行事の計画と報告、地域との意見交換等である。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	介護保険更新時や空室情報など情報伝達し協力関係を築いている	管理者が窓口となり、訪問を基本に日常的に連携し協力関係を築くとともに、運営推進会議で指導を受けたり交流したりしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は行わない方針で、それに対する勉強会も年1度取り組んでいる	法人と事業所で年度にそれぞれ1回研修し、拘束の必要のないケアに努めている。とりわけ、言葉についてはユニットのリーダーを中心に細やかに指導している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止勉強会も年1度以上行い、社会的に話題な時にもミーティングや申し送り時に伝達し日々自分たちのケアを見直す機会を持っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度の勉強が足りていない		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	説明義務を果たすとともに契約後も不明な点等には丁寧に説明を行っている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	法人より年1度アンケートを送付しそこで得た意見を反映させるようにしている。	家族には年1回、アンケートを実施し意見を把握している。利用者は日々のケアをとおして把握している。出された意見は、歩行訓練や献立等に反映している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティング時など法人運営について説明とともに要望があれば提案していくスタイルをとっている	月に一度のミーティング時に、意見を聞くようにしている。各ユニットの裁量が大きく、利用者へ感謝状を作成するなど、職員の意見が反映されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	残業等が出来るだけ少なくなるように配慮とともに時間外については管理者の責任のもと手当を支払っている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の研修や福祉用具・外部研修等各々がスキルアップできる様研修機会が設けられている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他事業所ともケアプランやケアの取り組みについて話す機会を設けお互いに意見交換が出来ている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前アセスメント・入居後アセスメント等本人や家族からの情報をふまえ信頼関係が構築できるようにしている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	同上		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	同上		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来る作業を提案し共同生活が営めるようにしている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時などに情報伝達し必要なことはサービスに取り入れるようにしている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	生活歴を伺い出来るサービスはプランに反映して支援に努めている	地元出身の利用者が少なく、近隣には馴染みの場や人は少ないが、定期的に全員が地域のサロンに参加することで、新たな馴染みの場を作っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日頃からお茶の時間などでゆっくりと皆が出来る空間づくりに努めて孤立しないようにしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去時には必要な情報伝達し支援に努めている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	担当者がメインに希望や意向をチームで把握することで本人の為に出来ることを探している	入浴時等、利用者の話を聞く中で思いや意向を把握している。困難な場合は、生活歴や家族との連携により、本人本位となるよう、検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	同上		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	同上		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアカンファレンスで会議する以外にも各ユニットで個別案件として話し合い介護計画につなげている	日常の細やかな観察を基に記録を作成し、カンファレンスやミーティングで意見を交換し、介護計画を改善している。見直しは3ヶ月・6ヶ月としているが、状況に応じて柔軟に対応している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録を参考にチームで情報共有してケアプランに反映させている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	既存の形にとらわれないサービスを模索し柔軟に支援している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	公民館・小学校・地域交流館・消防署・警察と連携を図っている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	希望を継続される場合はそのままし希望無ければ当事業所提携医へ紹介し治療を継続します	利用者の多く協力医をかかりつけ医としている。月に2回の往診や看護師とも緊密に連携し、医療面での安心感を利用者・家族にもたらしめている。歯科については、希望による往診と受診がある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	非常勤看護師が勤務日は健康チェック等を実施、異常時は速やかに提携医に連絡相談体制をとっています		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された後も面会等で病状把握及び退院に向けての関係者との情報交換に努めている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に重度化の指針を説明しその際には家族に説明及び今後の方針を伺っています	利用開始時に、事業所として出来ること・出来ないことを説明している。重度化した場合は医師・看護師・家族が連携し、チームとして支援する体制を整えている。看取り経験が豊富で、職員は安心してケアに取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時のマニュアルを基に訓練及び勉強会の実施をしています		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災訓練は年2回行い地域住民等の協力も得ています、時には突発で行い職員の緊張感を養えるようにしています	昼と夜間を想定した避難訓練を年、2回実施し自治会や近隣の住民も参加している。職員に知らせないで訓練を行うこともあり、常に緊張感をもって災害への対応をしている。主食を中心とした備蓄を備えている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	声掛けがより良いケアの第一歩であり、不適切な言葉かけには皆で気付けるようにしています	居室に入る際のノックや排泄時のケアに配慮している。とりわけ、言葉遣いに配慮し、利用者一人ひとりの尊重とプライバシーの確保に努めている。	トイレに置いてある下着等への記名については、より細やかな配慮が期待される。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	こちらが決めるのではなく入居者に選択してもらうように心掛けています		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日のスケジュールの中で決められた時間外は提案し希望に添えるようにしています		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	整髪・整容が出来る方は自身でした頂きます		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	日々、出来る作業を模索する中で皮むき・カットなどを提案・実施・見守りを行っています	本部が作成した献立を基に、毎食、職員が交代で手作りしている。誕生日には希望のメニューを取り入れたり、外食等による変化も持たせている。利用者も皮むき等の下ごしらえに加わっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量の調整・水分量を計測し元気に過せるように支援を行っている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアで不十分なところは歯科衛生士等の助言により必要なケアを提供できるようにしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	出来るだけトイレで出来るよう職員は日々ケアを実施しています	記録に基づく細やかな声かけにより、昼間は8割の利用者がトイレで排泄している。夜間は一人ひとりに応じた対応となっている。おむつから紙パットへの改善例も見られる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の永遠の課題で、食事・水分・運動とケアでカバーできるところはプランで実施しなおかつ医療ケアを取り入れています		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴日はあらかじめ定めていますが時間・順番等はその日ごとに分けています	週2回、午後も基本に実施している。入浴剤やゆず湯等も取り入れ、入浴を楽しむ工夫もしている。介護度・性差等により入浴時間や順番を決めており、現在は入浴を嫌がる利用者はいない。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の活動を生き生きすることで夜間よく休まれるように支援しています		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	お薬手帳をもとに職員1人ひとりが把握に努め既往歴・現在状態を確認しています		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	タバコやお酒など特別医療指示がない方は楽しまれています		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	近隣散歩やサロン等へ出かけ地域住民との交流を持っている	一人ひとりの希望の把握には難しい面もあるが、日々の散歩や買い物、初詣、地域の祭り、サロン等に積極的に参加している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外出の際に自身で支払い能力のある方には支援行っています(タバコの購入時)		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	出来る方は電話等されています		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関には入居者作の生け花や飾りがありともに楽しめる空間づくりに努めている	むき出しの梁や杉の腰板など、和風の落ち着いた雰囲気を醸している。玄関には利用者の作品や生け花を置き、生活感を出している。清掃が行き届き、音や光・湿度等も適切に管理されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファーや畳ベッドは入居者の動線を考慮して配置し居心地がよくなるようにしています		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	個室は自身・家族のレイアウトで配置しています	木製の床と腰板が柔らかさと落ち着きを醸している。担当の職員が作成した感謝状やテレビ等が持ち込まれ、すっきりとした居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全に考慮した建物となっています。自立が出来るよう手すりや危険なものが無いようにしています		